

蓮田研究室 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究者および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第2回ロボット技術教育シンポジウム
演題名	WRO2017コスタリカ大会における自律型ロボットの動向
発表者	○高橋大地（情報電子工学科1年）、 <u>波江野 勉</u> 、 <u>蓮田裕一</u>
内容	<p>2016・17年開催のAdvanced Robotics Challengeにおける参加国・地域の状況および参加チームが用いているCPUなどの使用機器の特徴などを考察し、ARC競技の今後の展望について言及する。なお、2017年のコスタリカ大会に日本代表として参加した帝京大学チーム「Teikyo Robo Lab」は3位に入賞する好成績をあげている。</p> <p>2017年大会はロボットに求められる制御が高度なものになり、カメラでの画像処理のみの制御では対応しきれないものがあつた。今後は各国、各チームが独自のセンサーやモーターを使用できるため、攻略の幅が広くなりよりアイデアや戦略が求められる大会になる。</p>
関連画像	 